

鎌ヶ谷市総合基本計画審議会 委嘱状交付式並びに平成21年度第1回会議 会議録

日 時 平成21年9月2日（水） 午後2時30分～4時30分
場 所 鎌ヶ谷市総合福祉保健センター4階 会議室
出席委員 秋山秀一（会長）、島岡貞男（副会長）、平石正美、惠小百合、
高橋渡、鈴木秀承、御代川泰久、笹川種夫、川上传吉、近藤勝、
進藤悦男、吉田文夫、滝克洋、竹内直榮、早川昌明（敬称略）
欠席委員 中井愷雄（敬称略）
事 務 局 清水聖士市長、北村総務企画部長、青木市民生活部長、
吉村健康福祉部長、野中都市建設部長、長井生涯学習部長、
岩佐総務企画部次長（事）企画財政課長
山口企画財政課企画政策室長、杉山（企画政策室）
記 録 杉山

1 委嘱状交付式

一部委員の交替があったため、会議に先立ち委嘱状交付式が行われ、清水聖士市長から委嘱状が該当委員に交付された。引き続き市長から挨拶があった。

2 平成21年度第1回会議

（1）開 会

（事務局）

それでは、ただいまより平成21年度第1回鎌ヶ谷市総合基本計画審議会を開催する。条例の規定により、進行は会長にお願いしたい。

～以下、進行は秋山会長～

（2）会議録署名人の選出について

（会長）

次第の（2）「会議録署名人の選出」についてお諮りする。事務局から説明願いたい。

（事務局）

この会議については、前回会議で「公開」と決定されており、毎回2名の会

議録署名人を選出いただくこととなっている。事務局としては、慣例により名簿順での選出をお願いしたいと考えており、今回は、恵委員、高橋委員をご提案する。

(会長)

ただいまの事務局の提案についていかがか。

(一同)

異議なしと発声する者あり。

(会長)

では、会議録署名人については、事務局提案のとおりとしたい。

(3)「後期基本計画(案)」の諮問について

(会長)

次に、会議次第の(3)「後期基本計画(案)の諮問」について。市長から諮問がございます。

(清水市長)

鎌ケ谷市総合基本計画後期基本計画について(諮問)。鎌ケ谷市総合基本計画審議会会長 秋山秀一様。鎌ケ谷市総合基本計画を定めるにあたり、鎌ケ谷市総合基本計画審議会条例第2条の規定により、鎌ケ谷市総合基本計画後期基本計画(案)について、貴審議会の意見を求めます。平成21年9月2日。鎌ケ谷市長 清水聖士。

～ここで、清水市長から秋山会長に諮問書が手渡された。～

(会長)

ただいま市長から諮問があった。事務局は諮問書の写しを各委員に配付願いたい。

～ここで、事務局から各委員に諮問書の写しを配付～

(会長)

なお、市長は所用があるとのことなので、ここで退席される。

～ここで、清水市長、退席～

(会長)

次に次第の(4)「後期基本計画(案)」の説明に入る。事務局から説明願

たい。なお、内容が多岐にわたるので、説明は第1編と第2編に分け、第1編が終わった段階でいったん質疑応答を行いたい。

(事務局)

資料に基づき、「後期基本計画(案)」の第1編を説明。

(会長)

ただいまの説明について、質問があるか。

(M委員)

「重点政策」の「重点」を設定した尺度は何か。

(事務局)

いくつかの評価項目に基づいて、市長はじめ各担当部長の意見を集約したものである。

(事務局)

25ページに評価項目について、記載をしている。

(M委員)

「生活環境の満足度・重要度」の分析をした表があるが、「道路の状況」について不満足度が一番高い。政策上は、「都市活動を支える交通網整備を進めます」に入ると考えるが、これは重点政策とはなっていない。市民の不満が高い中で重点政策になっていないが、これはどのような考えによるものか。

(事務局)

基本的には、5つの評価項目で評価を行っている。その場合、「市民ニーズ」では一番高いものの他の視点を踏まえた中では、他の政策より上位にならなかったということである。ただ、政策の下の施策レベルでの優先度では、「安全でゆとりのある道路の整備」の優先度は高くなっている。

(M委員)

鎌ケ谷市は道路の整備が遅れ、千葉県平均よりも低い。渋滞も多く、夜間の通過交通も多い。このあたりを踏まえて、最重要としてほしい。

(O委員)

そういった内容も踏まえて、「安全・安心」が重点政策に上がってきているのではないか。

(事務局)

「安全・安心」には様々な面があるが、特に防災に重点を置いているところである。鎌ケ谷市が年間に事業に充てられる一般財源が約7億円という状況の中、道路整備には多額の経費を要することを勘案すると、福祉や教育に確保できる財源は少ない。道路整備による「安全・安心」も必要だが、防災のようなソフト面にも投資する必要があると判断しているところである。

(M委員)

ハードの道路計画にはお金がかかるという中、予算がつくまで放っておくということになってはいけない。道路の傷みひとつをとっても、制限速度が30キロの道路と50キロの道路とで傷みが違う。これを少なくするための施策も考えられる。

(事務局)

「基本構想」に掲げた11の政策はすべて重要、というのが大前提にある。そういった中、さらに重点化を図っていこうという趣旨で設定したのが「重点政策」である。事業費ベースでみると、ご指摘の「都市活動を支える交通網整備を進めます」に充てている額が一番多いはずだ。これ以外の「重点政策」に設定した4つの政策にも投資をしていこう、という考え方である。

(M委員)

お金を使わずにやれることはたくさんあると思うので、お願いしたい。いずれにしても、この政策について、私は最重要課題ととらえたい。

(会長)

このあたり、地方自治をご専門とされている平石委員、いかがか。

(C委員)

政策には色々な分野があり、財源には限りがある。そのどこかを選択することが「重点政策」。皆さん色々な分野で活躍されているので、それぞれの分野に力を入れてほしい、ということになってしまう。ただ、それでは行財政運営が立ち行かないので、重点化という方向となっている。こういった方法がなじみ難いことは確か。「子どもの健全育成」といっても、都市基盤整備やコミュニティ施策、病院の整備など様々な施策が複合して子どもの健全育成が達成される。市の姿勢として重点を置く、という話と協働の視点でやっていく分野を重点化する、とうことを整理しないと誤解を与える。「体制」「財源」「協働」、どの視点での重点なのかを説明する配慮があってもよい。

(事務局)

誤解を招くようなところは、工夫していきたい。

(会長)

今まさに計画案を市民に示して意見を求めているとのことであった。市民からの意見は、どう検討されたのかに注目が集まる。市民が見て、「まちづくりに協力したい」と思える計画にしてほしい。

(O委員)

人口推計であるが、9月1日号広報では現在の人口が106,003人であるのに対して、平成27年に107,875人でピークを迎えるとのこと。現状値を踏まえるとあと2~3年でこのくらいの人口に至るのではないか。今後は、宅地化も増え、人口も増える気がする。

(事務局)

人口については、平成12年までは年間200～500人増えていた。その後、2年で5人しか増えない時期があったが、平成20年には年間900人増加している。このうち自然増が200人、社会増が700人である。新鎌ヶ谷地区の張り付き状況を勘案して、あと2千人の増とした。自然増減といった面に着目すると、高齢化が進み、マイナスに転じる。今後も年間千人程度での増は見込めないと考えている。

(O 委員)

開発の動向を知りたい。

(事務局)

市内の大規模開発は新鎌ヶ谷地区のみ。59ヘクタールのうちほぼ3分の2程度は埋まっている。今後、マンション開発や空地が若干あるが、大きなものはないと見込んでいる。現在の新鎌ヶ谷地区の人口は1,650人であり、完成しても計画人口より少なくなると見込んでいる。

(O 委員)

空地はだいぶあるように感じる。

(事務局)

開発事業者の意向もあり、宅地になるかは未定。また、新鎌ヶ谷地区への転入は市内転居もある。

(会長)

以前は、人口は右肩上がりの時代だったが、国全体が人口減少時代に入り、それなりの根拠をもつての推計と考える。他自治体も、多く見込んでいるところは少ない。

(O 委員)

平面開発より立体開発が増えていくのでは。

(事務局)

不動産業では、駅から15分圏外のマンションへの入居は少ない、との考えがあり、現在の新鎌ヶ谷周辺の状況を踏まえると、大幅な伸びは考えにくい。

(C 委員)

総合計画の作り方は人口がベースというのが基本。どういった予測をするかは各自治体でスタンスが違う。実勢に近いものを設定する自治体や、高めの目標人口を設定して政策誘導する自治体もある。将来人口は不確定要素も多く、上位推計・中位推計・下位推計などのパターンをもって幅をもって見積もることも一案だ。

(事務局)

国立社会保障人口問題研究所の推計では、鎌ヶ谷市は既に人口減に入ってい

る。ただ、市としての推計は現在の新鎌ヶ谷地区の開発動向を踏まえて、これよりは上方に設定しているところである。

(C 委員)

実勢値、政策値というところの見せ方が異なるのではないか。

(会長)

確かに、10年後は不確定と言いながら、1人単位までの表記となっているのも気になる。

(事務局)

表記も含めて検討したい。

(D 委員)

人口推計の結果、どういった人口の質が今後増加するのか、といった点を踏まえての「重点政策」の選択だと考える。ただ、そのあたりの説明は必要ではないか。

今回の計画は、平成23～32年度の後期10年間を計画期間とするものであるが、市民からの道路整備に対するニーズの高さという状況も認識しつつ、それにかかる期間と費用がこの10年間という期間で可能なのかも踏まえて、重点をどこに置くのかという視点もある。10年を超える長期のものを重点とすることは難しいのではないか。このあたりの説明や計画に記載できない場合には、資料があってもよい。

(事務局)

ご指摘いただいた説明については見える形で触れるように検討したい。どういった前提なのかの説明は必要である。

(M 委員)

この計画は、「ぜひ鎌ヶ谷市に住みたい」と思ってもらえるためのもの。人口の目標がなくてはいけないのではないか。来年度、成田新高速鉄道の開通も見込まれる。この事業には相当投資しているが、見合った効果が得られるようにしてほしい。

(N 委員)

従業人口については、各業種とも平成22年度がピークとなっているが、これを踏まえた施策とする必要があるのではないか。

(事務局)

従業人口は国勢調査に基づいているが、平成17年度のみ実績値となっている。この実績値では、「産業分類不詳」となった方もおり、それらの方を各業種人数には加えていない。実際には、平成17年度以降、徐々に下がっていくと考えられる。表記方法が分かりにくいので、工夫させていただきたい。

(会長)

それでは、第2編に移りたい。事務局から説明願いたい。

(事務局)

資料に基づき、「後期基本計画(案)」第2編について説明。

(会長)

すべての施策を見開き2ページで同じフォーマットとしたとのことだったが、これに伴う弊害も若干あった。交通事故死亡者数など目標としてゼロでないとおかしいものなどもある。個々具体の意見については、事前意見提出票が配られているので、それに記載して次回議論することとしたい。それを踏まえた中で、特に発言されたい方はいるか。

(E 委員)

施策「良好な住宅の整備」は命に関わる住宅の耐震化も含んでいるが、鎌ヶ谷市内には昭和56年以前に建築された建物が1万棟あると聞いた。これを診断した場合にはIS値が0.4前後で倒壊の恐れが高いとのことである。こういった状況の中、耐震化した住宅は皆無である。学校もそうだが、住宅も対応が必要。1万棟というと10万市民のうち3~4万人は地震に弱い建物に暮らしていることになる。この事業には財源が必要であるが、市の収入を伸ばす点についての記載が少し弱い印象だ。

下水道普及率も近隣市より低く、農業人口も減っていく見込みである。不動産は10年前に130あった事業所が現在は80を切っている。家の建替えは他市で、という方が多い。こういった状況では決して住み良いまちとは言えない。昼間人口も少ない。何とかこれを食い止めたい。審議会の中で、知恵を出し合い、こういった観点を基本に検討していきたい。

(会長)

まちづくりの一番基本的なところのご意見である。各地を見て回ると、小さくても良い店には人が集まっている。また、住んでいる人がみんなと一緒に取り組むことでよいまちになっていく。

(E 委員)

新鎌ヶ谷地区で飲み屋も開業できるようになるとのこと。今はキレイすぎて集まれるところがないが、こういったものが開業できることで集えるようになる。

(M 委員)

計画は市民の目線で作ってほしい。市民が主役なので、市民が体験したことを反映できるようにしてほしい。スポーツひとつ取っても、市民が一番やっているのはウォーキングやジョギングである。これをやろうと思っても道路の問題に当たる。市民の目線で整理してほしい。

(N 委員)

目標設定について、「上昇」と記載しているものもある。具体的な数値で目標を示すことが必要ではないか。過去の数値は出ているので、これを踏まえて具体的な数値でこういった目標にしたい、というものを示すべきである。例えば循環型社会は各自治体それぞれが努力している。鎌ヶ谷市の10万人という人口はそれほど多くなく、やる気さえあればできる。市民生活に密着したものであり、啓発をして目標をもってやっていけばよい。

(事務局)

目標値が「上昇」という表記ではどうか、というご指摘はごもっともである。今後検討させていただきたい。ゴミについては、自治会で協力いただき分別していただいているところである。

(N 委員)

PR も自治会の協力でできるのでは。

(事務局)

それは可能である。

(N 委員)

市民参加によるまちづくりを各所に記載している。退職した人は時間もあり、役に立ちたい、という気持ちもある。また、人生経験だけでなく技術もある。これを活用することが費用面でも有益だし高齢者の生きがい対策にもなる。シルバー世代の参加といった内容を記載いただきたい。

防災行政無線の修理ひとつとっても、技能をもった市民を活用すれば解決できることもある。どういった人がどういった形で参加するのかといったことを施策「地方分権と市民参加の推進」あたりで検討いただきたい。

(会長)

市民にどういった人材がいるのか、は市民活動推進センターなどでも把握している。それをさらに全体に広げていってほしい。

(事務局)

検討していきたい。

(D 委員)

各施策を見開き2ページとするレイアウトはわかりやすい。目標の表記についても、「上昇」ならば矢印で上向きにしたりグラフ化するとさらに見やすくなるのではないか。

循環型社会では、10年間を見ると資源化率を上げるということだけでなく、減量もセットとすることが大切。ゴミ自体の増加の中で資源化率が上がっても仕方がない。資源化率と減量はセットということの説明などに配慮してはどうか。

また、「まちづくり主体ごとの役割」では、市民・事業者・行政のどういった

組み合わせでこういった取り組みをするとよいのか、子どものキャラクターなどを登場させて、吹き出しで記載するなどするとさらに分かりやすく楽しい感じになるのではないか。

(会長)

数字や文章のみよりも、イラストなどで工夫していったほうが楽しいことは確かである。

消費者相談件数は、問題がなければ下がるものであり、これを増加させるという目標には違和感がある。こういった細かい点も見てほしい。

(O 委員)

鎌ヶ谷市の農業の現状について知りたい。

(事務局)

施策「都市農業の育成」の「施策を取りまく環境変化と課題」に記載のとおりである。農地の減少、後継者の不足などといった厳しい状況である。

(O 委員)

目標が現状維持となっているが。

(事務局)

現在、右肩下がりとなっているものについて、時代に即した手段を講じることによって、何とか現状を維持したいとするものである。放っておいて右肩下がりにはできない。政策的姿勢として少なくとも現状を維持することを示している。

(O 委員)

休耕地を市民に貸すという取り組みはどうか。

(事務局)

市民農園を現在は行っており、また、国としても耕作放棄地の解消といった方向を出しているところ。

(O 委員)

休耕農地について、農家の意向があれば契約を出来る仕組みはあるのか。

(事務局)

そういった制度をもっているので、さらに取り組んでいきたい。

(J 委員)

計画全体を見ると、相当な財政力と行政体力が必要と感じた。1点だけ具体的な指摘であるが、施策「消防力の強化」のめざす姿の中に「病気」という表現が入っていることに違和感がある。これは健康の施策に入るべきではないか。

(事務局)

確かに、ここで目指しているのは消防と救命であり、今後検討していきたい。

(M 委員)

計画を推進するのに関係者との連携も必要だ。例えば、警察や農業、商業者など。こういった方の意見も踏まえて推進して行ってほしい。

(会長)

まだご意見はあると思うが、「事前意見提出票」により10月20日までの提出をお願いしたい。

(5) 今後の策定スケジュールについて

(会長)

では、会議次第の(5)「今後の策定スケジュール」について、事務局から説明をお願いしたい。

(事務局)

資料に基づき、説明。

(会長)

ただいまの説明につき、何か質問・意見はあるか。

(一同)

特に、質問・意見等なし。

(会長)

質問・意見等ないようであれば、次の議題に移りたい。

(6) その他

(会長)

では、会議次第の(6)「その他」について、事務局または委員のみなさんから何かあるか。

(一同)

特に、質問・意見等なし。

(会長)

各委員から活発なご意見をいただいた。今後の策定で活かして行っていただきたい。

他に意見等なければ、本日の会議はこれにて終了することとしたい。

(7) 閉 会

以上で会議は終了した。

会議録署名人の署名

以上、会議の経過を記載し、相違ないことを証するため次に署名する。

平成21年10月 5日

氏名

惠 小百合

氏名

高橋 渡
